

はあとふる・ふくしま

7

特集

東日本大震災で社会福祉施設の避難は、 どのように行われたのか

～マニュアルよりも役立った“ネットワーク”の力～

【みんなで育てる地域福祉】 6

東日本大震災・避難所における女性専用スペース
～ちょっと息抜き、しっかり生き抜く笑顔の場

情報掲示板 8

県社協 平成22年度 一般会計決算状況

新地町小川運動公園で7月10日に開催された「マイタウンマーケット」のひとコマ。同地区の仮設住宅で暮らす皆さんが協力して、八百屋、喫茶店、図書館などを企画・運営しました。元気あふれるマーケットにみんなも笑顔！



手作り市場や交流事業で広がる笑顔



南相馬市社協の職員とボランティアが仮設住宅を訪問し、入居者の方と触れ合うひとコマ。お隣同士が縁側に座っての談笑は避難生活のなかで心が和むひとときです。

発行・企画編集

社会福祉法人 福島県社会福祉協議会

TEL (024) 523-1251(代) FAX (024) 523-4477

URL <http://www.fukushimakenshakyo.or.jp>

メール heartful@fukushimakenshakyo.or.jp

南相馬市社協では、仮設住宅に暮らす皆さん同士で交流を図ってもらおうと、各地区の仮設住宅集会所などでお茶会を開催しています。七夕のこの日、参加者は願い事を書いた短冊を飾り、福島復興や家族の健康を願っていました。



「はあとふる・ふくしま」の作成経費の一部として、共同募金配分金および特別賛助会員の寄付金を使用させていただいております。

東日本大震災で社会福祉施設の避難は、 どのように行われたのか ～マニュアルよりも役立ったネットワークの力～

あらゆる面で「想定外」とされた東日本大震災で、支援が必要な社会福祉施設入所者の避難は困難を極めました。震災から4カ月、当時の状況を振り返ります。

**利用者とともに避難所を転々と…
物資が足りない、届かない…**

3月11日に発生した東日本大震災では、社会福祉施設等で生活していた多くの高齢者や障がい児者も被害を受けました。

地震や津波以上の困難となったのが、東京電力福島第一原子力発電所の事故です。次々と避難地域が拡大し、3月12日には、半径20kmに避難指示が出されたことにより、多くの施設が緊急的な避難を強いられることとなりました。

避難区域の拡大とともに避難先を転々として、向かった避難所がいっぱいで入れず別な避難所へ移動せざる

を得なかつたりと、ケアを必要とする利用者を守りながらの避難には大変な困難を伴いました。

何とか避難したものの、底冷えのする寒さの中、一般の人と同じ体育館などの避難所で過ごすこととなった施設がほとんどです。

さらに、3月15日に原発から半径20～30km圏内に屋内退避が呼びかけられたことで物流が止まって食糧が十分に確保できなくなったり、ガソリン不足により職員が通勤できなくなるなど、避難せずにすんだ施設においても利用者のケアが継続できない事態に陥りました。

通常、入所施設では数日分の食糧の

福島第一原発事故に伴い避難した30km圏内の社会福祉施設

※入所施設のみ ※（ ）内は施設の定員

※30km圏外でもライフライン等の被害により避難した施設あり。

●田村市

- ①特別養護老人ホーム 都路まどか荘(50人)

●南相馬市

- ②養護老人ホーム 南相馬市高松ホーム(100人)
③特別養護老人ホーム 長寿荘(70人)
④特別養護老人ホーム 福寿園(80人)
⑤特別養護老人ホーム 梅の香(50人)
⑥特別養護老人ホーム 竹水園(60人)
⑦知的障害時施設 原町学園(30人)
⑧知的障害者授産施設 原町共生授産園(50人)
⑨知的障害者通所寮 原町学園アフターケアセンター(23人)

●広野町

- ⑩特別養護老人ホーム 花ぶさ苑(36人)

●楢葉町

- ⑪特別養護老人ホーム リリー園(80人)

●富岡町

- ⑫養護老人ホーム 東風荘(75人)
⑬特別養護老人ホーム 錦山荘(80人)
⑭知的障害児施設 東洋学園児童部(80人)
⑮障害者支援施設 東洋学園成人部(49人)
⑯知的障害者支援施設 東洋育成園(50人)
⑰障害者支援施設 光洋愛成園(40人)



●大熊町

- ⑱特別養護老人ホーム サンライトおおくま(80人)

●双葉町

- ⑲特別養護老人ホーム せんだん(70人)

●川内村

- ⑳障害者支援施設 あぶくま更生園(46人)

●浪江町

- ㉑特別養護老人ホーム オンフル双葉(140人)
㉒救護施設 浪江ひまわり荘(100人)

●いわき市

- ㉓特別養護老人ホーム 翠祥園(85人)

備蓄を行っています。これほどの事態は各施設が整備していた防災マニュアルでも想定されておらず、まさに未曾有の出来事です。最終的には、30km圏内の入所施設はすべて避難することとなりました。(図1)

他にも、ライフラインの被害や物流の影響を受け、サービス提供が困難となった施設は県内に多数ありました。

避難するに比べて自力で移動

施設の入所者の多くは、自力で移動することができません。

下の表は、浪江町にある特別養護老人ホームオンフル双葉の実際の避難の状況です。今回の震災は規模が大きく、緊急的に避難が必要となっても、大人数がすぐに移動できる手段を確保することができませんでした。

また、避難のためにバス等の移動手段の確保ができて、寝たきり状態の高齢者にとっては、移動するだけで身体に大きな負担がかかります。

さらに十分な設備や資材の無い避難所での生活を強いられることは、身体状態の悪化にもつながります。高齢者の場合、避難所に出される食事をそのまま食することができない方もいます。障がい者の場合、慣れない環境で状態が不安定になり、また一般の方の障

がいに対する理解不足からトラブルになることもありました。

障がい児者施設の中には、避難所へ入ることが困難なため、県外施設へ集団で「避難」した施設もあります。

被災しながら勤務を続ける職員

入所施設では、通常、職員は交代制で勤務しています。

しかし、避難時に勤務を外れていた職員が避難所に合流することはままならない状況であり、避難時に勤務していた職員が交代職員不在のまま、ほぼ24時間体制で利用者へのケアを続けることとなりました。

もちろん、職員自身も被災者です。自分の家はどうなったのか、家族と連絡が取れなかったり、別々の場所に避難したりと、不安を抱えながらも、「利用者のために」、その一念で多くの職員が勤務を続けました。

しかし、一般の避難所でケアを続けるには職員、利用者ともに限界があります。行政を始め、関係者が右往左往する中で、いち早くそのような避難施設へ支援の手を差し伸べた、福島県老人福祉施設協議会(以下「県老施協」という)会津支部の活動を次にご紹介します。

福島第一原子力発電所から11kmにある特別養護老人ホームオンフル双葉のケース

3.11から
1週間の動き

3月11日(金)

14:46 大震災発生。様子を見るため、職員を交代で自宅に帰す

3月12日(土)

- 9:00 浪江町役場から、介護老人保健施設(以下「老健」)の入所者と2つの病院の入院患者、計200人の受け入れ要請がある
- 18:25 20km圏内の避難指示。職員体制42人
- 22:00 老健の避難者を二次避難先に翌日2:00までかけてワゴン車でピストン輸送する
- 23:00 病院の避難者67人のうち30人を町バスが迎えにくる

(※この夜は、施設内でオンフル双葉入所者、2病院の患者、職員など計275人が過ごす)

3月13日(日)

- 8:30 浪江町役場の指示で避難準備
- 13:00 約束の時間にバスが到着せず。病院からの30人は人工透析のため一旦病院に戻る
- 15:00 公衆電話を探しに職員が町に出る。途中、パトカーを止め、警察官に事情を説明
- 17:00 自衛隊を呼び止め食事が無いことを伝える
- 18:30 自衛隊からご飯が届くが不足

(※この夜は、施設内で244人が過ごす)

3月14日(月)

- 4:30 搬送先不明のまま自衛隊による搬送が決定
- 10:00 職員が町長に会い、自衛隊の搬送が来ない状況を伝える食糧(パン)を確保して施設に戻る途中、「3号機爆発で町内へ入れない」と足止め。県警に交渉しパトカー先導で施設へ
- 21:00 県警のバス到着。全員搬送完了は深夜1:30。病院の患者はいわきへ。残りの患者と施設入所者は相双保健福祉事務所(南相馬市原町区)へ

3月15日(火)

- 2:30 相双保健福祉事務所で放射線のスクリーニング後、広島県警のバスに乗り換えて西郷村へ
- 9:00 西郷村の那須甲子青少年自然の家到着

(※現地に入所者114人 職員34人 一般7名 計155人)

3月16日(水)

下着・スエットなどの衣類、オムツなどの物資不足が深刻に

3月17日(木)

老施協会津支部の小林会長に連絡し助けを求める

「このままでは命にかかわる！」

浜通りの高齢者施設を支援した

県老施協会津支部の決断

※県老施協とは：県内の特別養護老人ホームやデイサービスセンターといった高齢者施設309施設で構成されている県社協の内部組織です。

震災時、いち早く行動に移し、避難した施設入所者のために支援物資を届け、受入先の確保に奔走したのが、県老施協の会津支部でした。比較的被害が少なかったとはいえ、物資不足などの問題には直面した会津地方。そんな中でも自らの施設の業務をこなしながら、老施協会津支部の役員として浜通りの施設支援に尽力した二人に話を聞きました。

必要な物資を一日でも

一時間でも早く

小林 会津は地震による被害はほとんどありませんでしたが、週明けの

14日(月)には食糧が入ってこないし、燃料が手に入りにくくなって、職員の通勤がままならない状態でした。さて、どうするか…と自分たちの対策を考え始めた頃に、県社協から



県老施協会津支部 元 施設部会長
(社福)博愛会常務理事
老人福祉施設統括・在宅事業所長

こばやし きんきち
小林 欽吉さん

今回の震災では、「必然的に動かなくてはいけない」と行動したという小林さん。「重度の人から引き受けます」、「もっと引き受けられます」と言ってくれた会津支部の施設長の申し出がうれしかったと話します。

浜通りの施設が大変なことになっていると聞きました。

まず、特別養護老人ホームのサンライトにおくまの施設長に、なんとか携帯で連絡を取ってみたら、声がもう悲鳴に近いんです。田村市にある船引工業団地に、一般の人たちと一緒に避難していたのです。

3月16日(水)には、すぐにでも必要と聞いた褥瘡防止用のエアマットや清拭用品、経管栄養用のとろみ剤などを、私の法人職員3人が届けに行きました。

渡部 県老施協会津支部として、今回の震災で被災された会員の施設に、「なにかできることはないですか？」と県社協に連絡を入れました。その時、すでに小林さんとやりとりをはじめていっていると聞いて、小林さんと連絡をとり、第1回目の打合せを17日(木)にしました。

小林 活動の拠点はうちの法人であるみどりホームに置くことにして、まずは支援物資集めを始めました。各施設から少しずつ物資を持ち寄ってもらおうと呼びかけて随分集めたのですが、それでもまだ足りません。県老施協から活動のための資金を提供されたので、渡部さんは、自分の車をつかっていろんな物資を

山形に買いにいったんです。

渡部 避難された施設に連絡を取ったところ、オムツや下衣の替えがほとんどない。とにかく、オムツやジャージのようなスポンがほしいということでした。会津若松市内にはこれらが不足していましたが、米沢にはあると聞き割高でも買った方がいいと判断しました。大災害では「いかに早く、必要な物を届けるか」が大事で、時期を過ぎると、物資はムダになってしまいます。18日(金)には、まず那須甲子青少年自然の家に避難していたオンフル双葉に物資を届けにいきました。

「迎えに行つてよかった」

小林 支援物資を届けるのが第一歩で、それから入所者が安全で安心できる受入先の確保が必要になってきます。物資を避難所に届けるのと平行して、会津支部の施設すべてに「どうにか受け入れてほしい」と連絡を入れていきました。施設での受け入れは、部分的に17日(木)から。当然、会津の施設でも余裕はないけれども、あのまま避難所にいたら入所者の命にかかわりましたから、こち

らも必死です。各施設の食堂やリビングも全部つかってもらうようにして、受け入れを進めました。

渡部 当初、ある程度中通りの施設でも受け入れられると思っていたのですが、思いの外ライフラインの被害が大きく、日が経つにつれ会津で受け入れなければならない現実が見えてきました。避難先の現状を目の当たりにしたら、「出来る人が何かをやらない」という気持ちになってくるものだと思います。

小林 雪まじりの寒風の中、避難所まで迎えに行つて「最初は正直言つて負担に感じていたけれども、行つてよかった」と話してくれた施設長がいました。「あのまま入所者を置いておくわけにはいかない」という状況だったからです。そして今回は老協協のつながりが、大きな力になりました。高齢者の命を守っている施設同士、顔見知りの施設長だから「なんとか助けたい」という気持ちも強くなるわけです。

日が経つにつれて、ともかく逃げなくてはいけない時期を過ぎ、避難の長期化がはつきりしてきました。みんな使命感で一生懸命やっているけれども、これから先は職員の過重労働など、また別の課題が出てきます。

避難している 介護職員の雇用

渡部 私の施設では、大熊町からの避難者を一人採用しました。

小林 私共の施設でも4月から一人、大熊町の人を採用しています。介護職員が足りないので避難した施設職員をぜひ雇いたいという声があるのですが、なかなか連絡がとれない状態です。どこかの機関で上手くマッチングできないかと思っています。

渡部 これから先、在宅で冬を迎えると、浜通りの方にとって雪も負担に感じると思います。仮設住宅での孤独死といった問題も出てきます。

小林 例えば大熊町に120人いた特養の入所待機者も、避難生活をしていきます。潜在的に要介護高齢者をどう支援していけばいいかというところもあるし、避難所などで動かないでいると廃用症候群や認知症が進んでしまうこともあります。避難生活が長期化することで深刻な事態にならないか心配です。

自分の組織にも メッセージを



竹田ほえみデイサービスセンター所長
県老協会津支部在宅部会長
わたなべ ていいち
渡部 悌一さん

阪神淡路大震災、新潟県中越沖地震でボランティア活動をした渡部さん。「災害があった時、支援につながる流れはある程度決まっていますが、その中身はそれぞれに違ってきます。その場に応じたその時のリーダーの行動力や決断が必要です」

渡部 なにしろこれだけの規模の災害はじめてで、マニュアルはあっても機能しない。その場に応じた動きをするしかない。だからこそリーダーがどう考え対応するのかを職員にもきちんと伝えることが大切だと今回実感しました。そうしないと「どうなってしまうのだろう」という不安が職員に広がってしまいます。

小林 私の施設では毎日各部署の責任者を集めて災害対策会議を行いしました。最初はみんな自分の持ち場の心配をするのですが、県内で起きている問題を共有することで、だんだん全体的にどうするかという視点に職員自身が変わっていくのです。人ごとではなく、支援していかねばならない思いが広がりました。私には、先の大戦で辛苦してきた高齢者の

方々に再びつらい思いをさせたくはないという思いもありました。

会津地域の施設長さんたちは、一丸となって受け入れに応じ、高齢者を守ろうと一緒に動いてくれました。その意欲と信念は本当に誇りに思います。

社会福祉施設はなくてはならない社会資源であり、避難地域が復興する際には社会福祉施設が存在が欠かせません。そのためにも、避難した施設が存続していくことが重要です。

県社協では、6月1日から、専門の相談員を配置し、避難した施設の定期的な訪問して経営や職員の雇用問題などに関する相談に応じています。今後も変化する課題に対応できるよう支援していきます。



みんな
で
育てる

地域福祉

●取材先●

ビッグパレットふくしま



郡山市

東日本大震災・避難所における 女性専用スペース

～ちょっと息抜き、しっかり生き抜く笑顔の場～



ビッグパレットふくしまBホール入口に設置された女性専用スペース。利用者からは「首・肩こり・リンパマッサージをしてもらえると聞いて来ました」「いろんな人と出会えて気分転換になるからいい」「借上げアパートに移ったけど、富岡町の情報が欲しいので週末はここに来ています」など、訪れる理由はさまざま。

東日本大震災で避難所生活を余儀なくされている方々にとって、復旧への道のりはまだ遠く、今もたくさん問題が残されています。そのような中、災害弱者といえる女性や子育て家庭の負担を少しでもやわらげ、安心・安全を守ろうと地域の女性支援団体が立ち上がりました。今回は、県内最大規模の避難所・ビッグパレットふくしま(郡山市)に設けられた「女性専用スペース」から生まれた地域の絆をご紹介します。

着替えや授乳、お化粧などに使える 女性専用スペースを避難所に

「ビッグパレットふくしまへの避難者は当初2500人いましたが、仮設住宅や借上げアパートなどに移り、6月末現在で約600人ほど。その4割が女性です。自分たちのふるさとを離れて、知らない土地にきた避難者は毎日不安でいっぱいです」と教えてくれたのは、福島県男女共生センター副主査の長沢涼子さん。震災直後、県庁避難所運営支援チームは、着替えや授乳をする場所がない、夜泣きをなだめる場所がないなどの避難者の声を受けて4月17日に女性専用スペースの場所を確保、そのサポートを福島県男女共生センターに依頼しました。

「避難所で初めに目に飛び込んできたのは、避難者たちの憔悴(しょうすい)した姿。ふつうの身なりで入ることに気が引けて、顔を隠して入っていくような感じでした。元氣な自分が申し訳ないというか…」と長沢さん。すべてが手探りで始まった女性専用スペースは、その日にできることをやってみるを暗黙のルールに中身ができていく

ました。この女性専用スペースでは朝9時から夜の9時まで、着替えや授乳、お化粧、おしゃべり、仮眠などに利用することが出来ます。運営は福島県男女共生センターが調整役となっており、女性の自立を応援する会、NPO法人しんぐるまざあず・ふぉーらむ・福島郡山市婦人団体協議会の3つの女性支援団体がボランティアで支援協力してくれることになりました。

避難所生活が「日常」になったとき、支援者に求められるのは、頭で考える力よりも、今すぐ動く力。「どんなに仲の良い家族でもほどよい距離感は大変。女性専用スペースで少しでも息が抜ける居場所を作ることができたのが大きな効果。でもここは通過点でしかありません」と福島県男女共生センターでは新たな課題と向き合っています。



福島県男女共生センター副主査の長沢涼子さん。「避難所によって環境や条件はさまざま。今回の女性専用スペースの場合、避難所内に役場機能と社協の窓口があったのが良かったと感じています」。

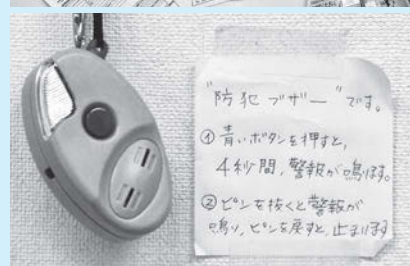


「女性の自立を応援する会」代表の刈米照子さん。「避難所では家族の絆が深まったり、些細なことでDVに発展することもある。精神的に追い詰められても逃げ場がなければ解決できません」。

避難所の女性は見かけは明るいけど、心は緊張状態

女性の自立を応援する会は会員約50名。夫婦関係や福祉制度などに関する相談会を開く一方で、DV（ドメスティック・バイオレンス※1）に対する偏見や差別をなくそうと活動している団体です。代表の刈米照子さんにお話を聞きました。

「ホッとカフェ」という相談コーナーを設けたのが、避難所での最初の活動です。同じ頃に女性専用スペース設立の話が持ち上がったので、一緒に活動したいと手を挙げました。避難所の女



団体や個人の善意で集められた防犯ブザーは約200個。女性専用スペースで欲しい方に配布。

「ふだんはひとり親家庭を対象に相談会やセミナーなどの活動を行っています。今回の震災では、女性支援という視点で動いています。震災後は各地区の相談員の協力を得て、県内約250の避難所を回り、女性が必要とする物資の聞き取り調査や個別相談、電話相談を行いました」としんぐるまざあず・ふおーらむ・福島の理事長

聞き取り調査で、女性一人ひとりの支援を

性たちは明るく冗談を飛ばしたりしていますが、どこか無理があります。ハンドマッサージをしてもらって張りつめていた気持ちが緩み、思わず泣き出してしまふ女性の方もいました。会では、郡山市の5つの支援団体による女性支援ネットワークを立ち上げて地域の情報を共有。女性のワンストップサービス※2の実現に向けて避難者の受け皿づくりが進んでいます。



郡山市婦人団体協議会会長小林清美さん。「協議会には約800名の会員がいます。できることは限られていますが、皆さんと一緒に楽しめるといいと思います」。

ほっと笑顔になれる、地元ならではの女性支援

「避難所の女性の皆さんを少しでも元気づけようと、お料理やお人形さん

長、遠野馨さん。ビッグパレットふくしままでの調査では、ブラジャーの不足が判明。そこで福島県男女共生センターと協力し、サイズを書き込めるチラシを作成、女性専用スペースやトイレで呼びかけました。その一覧をもとに女性下着の大手メーカーと交渉、ブラジャーの支援を受けることができました。現在、震災でひとり親家庭になった方から多くの相談をうけています。今後は県内外を問わず、私たちのネットワークを活かして避難者を支援したい」と遠野さんは力強く話してくれました。



しんぐるまざあず・ふおーらむ・福島の理事長、遠野馨さん。「同じ痛みを経験した女性が相談を受けていますので、相談者の2次被害を防ぐ効果もあります。今後も女性支援の輪を広げていきたいですね」。

作り、パッチワークなど、婦人会がこれまで学んだことを中心に支援しています」と郡山市婦人団体協議会会長の小林清美さん。中でも公民館を利用したお料理会が好評で、取材時には第2回の開催に向けて準備が進んでいるところでした。「避難所では包丁を持つこともできないでしょ。皆さんからアンケートをとって献立を決めて一緒に作って、おいしく食べたあとは、郡山の盆踊りやゲームで盛り上がりました」と小林さん。地元をよく知る婦人会のメンバーのもとには、郡山市の飲食店や手芸用品店などの情報を教えてほしいという相談もあるそうです。「今後は公民館を活動の拠点として、避難所の皆さんが仮設住宅などに移った後も連絡を取り合い、交流していただけるよう支援を続けていきたい」と小林さん。安心・安全をかなえる地域づくりの輪が広がっています。

＊ ＊ ＊

ビッグパレットふくしま避難所は、震災による応急危険度判定で「要注意」とされながらも被災者を受け入れ、7月中旬をめどに閉鎖する予定です。取材の最後に「避難所では毎日状況が変わります。支援者も被災者。ここにいる方は全員あらゆる意味で余裕がありません。思いっいたら誰かに頼むのではなく、自分ができるしかないんです」と福島県男女共生センターの長沢さん。待たなしの女性支援はどれも元気で明快。そして揺るがない使命感に燃えていました。

※1 DV（ドメスティック・バイオレンス）＝夫や恋人など、身近な男性から女性に対する肉体的・精神的な暴力

※2 ワンストップサービス＝ある分野に関連するあらゆるサービスを、そこに1度立ち寄るだけですべて行えるようにするサービス形態のこと

Q&A 福祉アラカルト

悪質商法や詐欺による被害を防ぐには

東日本大震災に乗じて悪質商法や詐欺など心ない事例が発生しています。被害に遭わないために十分注意してください。

Q 震災に便乗した悪質商法や詐欺の事例にはどんなものがありますか？

A 住宅などの点検にかこつけて高額な料金を要求する悪質商法や、被災者支援の募金と称して特定の口座に振り込ませようとする詐欺、または、被災者に電話をかけてきて「義援金を振り込むので口座番号を教えてください」という不審電話などがあります。

相手の説明をうのみにせず、その場で応じたり、契約したりしないことが重要です。住宅の修理などの契約をする場合には、複数の業者から見積りを取り、十分検討した上で契約してください。

Q 今後も注意が必要な手口などがありますか？

A 被災してお金が必要という方に対する悪質商法・詐欺の発生や、インターネット通販で放射能測定器などを購入する際のトラブルなどが懸念されます。

【融資保証金詐欺】

「低金利・即日融資」というチラシを見て融資を申し込んだところ、「先に保証金が必要」と言われ振り込んだら、だまし取られてしまった。

→ 正規の業者であれば、融資の前に金銭を要求することはありません。

【内職商法】

「パソコン内職」のダイレクトメール広告が届き申し込んだ。「就職支度金 60 万円が必要」と言われ事前に支払ったところ、業者と連絡が取れなくなってしまった。

→ 業者の連絡先などをよく確認し、契約は慎重にしてください。仕事を提供する前に支度金などの支払いを求める業者は要注意です。

【放射能測定器などのインターネット通販のトラブル】

インターネットで放射能測定器を申し込んだが、サイトに業者の電話番号などが記載されておらず商品の性能についても不安になった。「返品不可」となっていたが本当に返品できないのか。

→ インターネットやテレビ・雑誌などの通信販売にはクーリング・オフ（契約の無条件解除）制度がありません。事前に返品の可否・条件や業者の連絡先などを確認するとともに、商品の性能などを十分確かめて必要性を検討してください。

Q 高齢者や障がいのある方への見守りのポイントは？

A ● あやしい訪問や電話があったら、その場で応じず、すぐに周囲の人に相談するよう助言してください。

● 日頃から新聞・テレビの報道や自治体の広報などから情報を収集し、高齢者など見守りが必要な方へ「こんな手口がはやっている」「みんなで気をつけよう」と声をかけ、注意喚起するようお願いします。

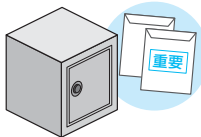
● 困ったことがあったら、県消費生活センターや各市町村の消費者行政担当窓口、警察に相談してください。

お問い合わせ先

福島県消費生活センター 相談専用電話(024)521-0999
午前8時30分～午後5時15分（土・日・祝日も含む）

認知症高齢者・障がいのある方のくらしの安心をお手伝い あんしんサポート（日常生活自立支援事業）のご案内

- 1 福祉サービスを安心してご利用できるようお手伝いします。
- 2 生活に必要なお金の出し入れや、公共料金等の支払いをお手伝いします。
- 3 通帳や印鑑など、大切な書類を安全な場所でお預かりします。



認知症高齢者、知的・精神障がいのある方などで、福祉サービスの利用やお金の管理など、暮らしの中で不安のある方を対象として、上記について公的な制度でお手伝いします。詳しくは、お住まいの市町村社会福祉協議会へ相談してください。

県社協 地域福祉課

TEL (024) 523-2442 FAX (024) 523-4477

メール shien@fukushimakenshakyo.or.jp

福祉サービスの苦情相談

福島県運営適正化委員会

ふ く し サービス

TEL FAX (024) 523-2943

相談時間 月～金曜/午前9時～午後5時
(祝日・年末年始の休日は除く)

メール kujou@fukushimakenshakyo.or.jp

★ 来所、手紙、電子メールでのご相談も受け付けています。お気軽にご相談ください。

〒960-8141
福島市渡利字七社宮111
(福島県総合社会福祉センター2階)

県社協 平成22年度 一般会計決算状況

本会における平成22年度一般会計の決算状況は、次の通りです。皆さまからいただいた会費や寄付金等は各種事業や地域福祉活動等に使われております。今後も社会福祉向上のために邁進してまいりますので、ご理解、ご協力の程よろしく申し上げます。また、決算の状況は、本会ホームページまたは本会事務局においてご覧いただけますので、ご希望の方は下記まで問い合わせください。

資金収支計算書

		予算額 (円)	決算額 (円)
経常活動による収支	経常活動収入	440,229,000	550,150,808
	経常活動支出	410,909,000	413,891,808
	経常活動資金収支差額	29,320,000	136,259,000
施設整備等による収支	施設整備等収入	0	0
	施設整備等支出	2,107,000	1,603,140
	施設整備等資金収支差額	△ 2,107,000	△ 1,603,140
財務活動による収支	財務活動収入	3,892,000	4,150,958
	財務活動支出	25,808,000	25,855,481
	財務活動資金収支差額	△ 21,916,000	△ 21,704,523
予備費		27,637,000	
当期資金収支差額		△ 22,340,000	112,951,337
当期末支払資金残高 (D)		0	135,291,540

事業活動収支計算書

		当年度決算額 (円)	前年度決算額 (円)
事業活動による収支	事業活動収入	503,200,279	527,656,065
	事業活動支出	416,884,852	490,586,995
	事業活動資金収支差額	86,315,427	37,069,070
事業活動外による収支	事業活動外収入	55,046,268	55,217,311
	事業活動外支出	32,246,207	20,201,282
	事業活動外収支差額	22,800,061	35,016,029
特別による収支	特別収入	0	0
	特別支出	1	49,741,419
	特別収支差額	△ 1	△ 49,741,419
当期活動収支差額		109,115,487	22,343,680
繰越活動収支差額	前期繰越活動収支差額	50,744,516	28,400,836
	当期末繰越活動収支差額	159,860,003	50,744,516
次期繰越活動収支差額 (E)		159,860,003	50,744,516

貸借対照表

		本年度決算額 (円)	前年度決算額 (円)
資産合計		699,101,604	678,350,650
資 産	流動資産 (A)	148,680,080	143,619,278
	固定資産	550,421,524	534,731,372
	基本財産	124,286,685	130,534,897
	その他の固定資産	426,134,839	404,196,475
負債合計		206,338,348	298,448,851
負 債	流動負債 (B)	13,388,540	121,279,075
	固定負債	192,949,808	177,169,776
純資産合計		492,763,256	379,901,799
純資産	基本金	10,500,000	10,500,000
	基金	242,182,372	233,802,863
	国庫補助金等特別積立金	69,120,881	73,754,420
	その他の積立金	11,100,000	11,100,000
	次期繰越活動収支差額 (C)	159,860,003	50,744,516

[財務三表の整合性]

貸借対照表と資金収支計算書との関係
 流動資産(A) － 流動負債(B)
 ＝ 当期末支払資金残高(D)

貸借対照表と事業活動収支計算書との関係
 次期繰越活動資金収支差額(C)
 ＝ 次期繰越活動収支差額(E)

お問い合わせ先

県社協 総務企画課

TEL(024)523-1251 FAX(024)523-4477

ホームページアドレス

<http://www.fukushimakenshakyo.or.jp>

赤い羽根で ささえあい



社会福祉法人福島県共同募金会

〒960-8141 福島市渡利字七社宮111
(福島県総合社会福祉センター内)
TEL (024) 522-0822 FAX (024) 528-1234

●ホームページ

<http://www8.ocn.ne.jp/~akaihane/>

●メールアドレス

akaihane@axel.ocn.ne.jp



平成22年度収入支出決算報告

福島県共同募金会の平成22年度収入支出決算をご報告いたします。

皆様からお寄せいただいた寄付金は、平成23年度に社会福祉施設の備品整備や建物の補修・修繕をはじめ、社会福祉団体やボランティアグループ、社会福祉協議会等が行う地域の福祉活動など様々な事業に使われます。その間は「未交付配分金」として県共同募金会でお預かりしています。

なお、詳しい寄付金の使いみちについては本会ホームページで公開しております。

平成22年度共同募金以外の寄附金について公表します

福島県共同募金会では、年間を通して指定寄附金の相談・受付を行っております。

指定寄附金とは、寄附者が寄附先と使いみちを指定して行う寄附のことです。共同募金会を経由することによって、税制上の優遇措置（株式会社など法人の場合は全額損金算入）を受けることができます。

法人及び個人からの受配者指定寄附金による、平成22年度の配分額の合計が3,000万円を超える受配者は次のとおりです。

(単位：円)

寄附者名	受配法人名	配分額
有限会社エフアイ企画 株式会社エフコム ゼビオ株式会社 財団法人脳神経疾患研究所 株式会社幸楽苑 酒井良信	社会福祉法人 南東北福祉事業団	55,310,000

貸借対照表

平成23年3月31日現在 (単位：円)

資産の部		負債の部	
勘定科目	当年度末	勘定科目	当年度末
資産の部		負債の部	
【流動資産】	512,667,213	【流動負債】	454,718,666
預貯金	511,637,213	未払金	1,000,000
未収金	1,030,000	未交付配分金	425,181,155
		預り金	2,537,511
【固定資産】	106,568,163	災害等準備金	26,000,000
基本財産	3,000,000	22年度災害等準備金	12,000,000
基本財産特定預金	3,000,000	21年度災害等準備金	14,000,000
その他の固定資産	104,431,553	【固定負債】	12,620,704
ソフトウェア	615,125	退職給与引当金	10,112,460
基金積立預金	91,195,724	県共済会退職引当金	2,508,244
県共済会退職手当	2,508,244	負債の部合計	467,339,370
全国退職共済預金	10,112,460	純資産の部	
資産の部合計	620,098,766	【基本金】	5,220,247
		基本金	5,220,247
		3号基本金	5,220,247
		【その他の積立金】	91,195,724
		基金積立金	91,195,724
		【次期繰越活動収支差額】	56,343,425
		次期繰越活動収支差額	56,343,425
		(うち当期活動収支差額)	6,447,691
		純資産の部合計	152,759,396
		負債及び純資産合計	620,098,766

福祉の求人、求職は福祉人材センターへ

8月の「福祉の仕事相談会」の日程

〈相談受付時間 午前10時～午後3時（全会場共通）〉

3日(水)	10日(水)	12日(金)	22日(月)
会津若松市 社会福祉協議会	いわき市 社会福祉センター	白河市 中央福祉センター	郡山市 総合福祉センター

県社協 人材研修課 福祉人材センター

TEL (024) 521-5662

FAX (024) 521-5663

メール jinzai@fukushimakenshakyo.or.jp

★ネット紹介システム(インターネット求人登録)は、

<http://www.fukushimakenshakyo.or.jp>

の福祉人材センターホームページからアクセス!

ひとり親のみなさんの就業を応援します。

母子家庭等就業・自立支援センター

8月の「就職相談会」のお知らせ

〈相談受付時間 午前10時～午後3時（全会場共通）〉

10日(水)	12日(金)	24日(水)
会津若松市 会津保健福祉事務所	福島市 県総合社会福祉センター	いわき市 いわき市総合保健福祉センター

●相談無料 事前に予約が必要です。

●随時、お仕事の相談を受け付けております。上記以外にも県内各地で相談会を開催しておりますので、お気軽にご連絡ください。

県社協 人材研修課 母子家庭等就業・自立支援センター

〒960-8141 福島市渡利字七社宮111

(福島県総合社会福祉センター3階)

TEL (024) 521-5699 FAX (024) 521-5663

メール boshi@fukushimakenshakyo.or.jp

社協通信

今年度から毎月、県内の市町村社協の活動をご紹介します。第1回目となる今回は喜多方市社協です。

喜多方市

喜多方市 社会福祉協議会

■職員総数:103名

〈本所〉〒966-0043

喜多方市字上江3646-1

喜多方総合福祉センター内

TEL(0241)23-3231 FAX(0241)23-3296

URL <http://www.kitakata-shakyo.or.jp/>

エリア
情報

喜多方市 (平成23年3月1日現在)

人口: 52,197人

世帯数: 16,981世帯

高齢化率: 31.2% (平成22年9月1日現在)



喜多方市社協がバス会社との協力のもと実施した「ボランティア日帰りツアー」。美しい福島を取り戻そうと、職員もボランティアとともに瓦礫撤去を行いました。

「報・連・相」、「危機管理」、 「初期対応」の徹底化

喜多方市社協は、平成の大合併にともない平成18年に新生・喜多方市社協として再スタートしました。当時は全職員の意思を統一することが最重要と考え、報・連・相(報告・連絡・相談)の強化と、もしもの時のための事故対応マニュアルを作り、危機管理と初期対応の徹底化を図りました。現在、喜多方市社協は本所と熱塩加納・塩川・山都・高郷の4つの支所で運営しており、週に一度の支所長会議では

被災地での活動を 今後に活かしたい



「震災時は避難者に総合福祉センターなどの入浴施設を無料で提供し、要介護者に対しても入浴サービスを行いました」と武藤顯夫会長。

それぞれの地域の情報を共有し、市民一人ひとりが住み慣れた地域で安心して暮らせる福祉社会の実現にあたっています」と武藤顯夫会長は喜多方市社協の理念を話します。

東日本大震災時、喜多方市は比較的大きな被害はありませんでしたが、被災地からの避難者を受け入れるにあたり、喜多方市社協は3月16日に災害ボランティアセンター(以下、災害VC)を立ち上げ、避難所となった押切川公園体育館にも窓口としてサブセンターを設置しました。職員は報・連・相の徹底のもと、ボランティアの受付・コーディネートを行い、ボランティアとともに救援物資の仕分けや炊き出し

などを行いました。

その後、5月7日から6月1日まで職員5名を新地町災害VCへ、6月18日から28日まで3名を南相馬市災害VCへそれぞれ交替で派遣し、現地の災害VCの運営を支援しました。新地町災害VCの支援に向かった福祉課長・清野洋一さんは、「5月初旬はまだ町に多くの瓦礫が残っており、ボランティアの力が必須だと感じました。現地の災害VCから得た情報を広く喜多方市内へ発信するとともに、社協としてはもちろん同じ県民の一人として支援を続けたい」と力強く話してくれました。



「派遣先の新地町災害VCでは、他県や他市町村から集まった派遣者らとの連携が円滑な支援のカギとなりました」と振り返る福祉課長・清野洋一さん。

ニーズを把握しながら 継続的な支援を実施

喜多方市社協は6月中旬から7月中旬の間、市内のバス会



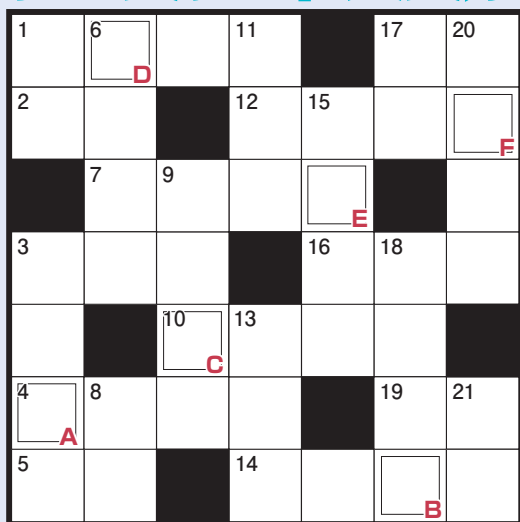
「一人ひとりの力がひとつになると大きな力になる。ボランティアの活動などをホームページで全国に伝えていきたい」と話す常務理事・猪俣薫さん。

社と連携し、いわき市への「東日本大震災復興応援ボランティア日帰りツアー」を運行しました。喜多方市民を中心に延べ180名の参加があり、現地の方と一緒に瓦礫撤去や側溝の清掃を行いました。武藤会長は「少しでも力になりたいと思い、私も職員らとともに参加しました。百聞は一見にしかずで、被災地の現状を肌で感じました」とその時の様子を振り返ります。

「今も喜多方市内の旅館等には約300名の避難者がいます。今後、県社協と協力しながら、喜多方市社協として何ができるか、何が求められているかニーズを把握し、他の市町村社協とも連携を図り支援していく考えです」と常務理事・猪俣薫さん。喜多方市から発信される被災者への支援が、福島県の復興の第一歩となっています。

チャレンジ! クロスワードパズル

全部できたら二重ワクの6文字をABC順に読んでください。そのことが答えです。



応募方法

ハガキにパズルの答えと ①住所、氏名(ふりがな)、年齢、電話番号、業種 ②本誌に対するご意見、ご感想、ご要望を全てご記入の上、下記までご応募ください。

締切

平成23年8月31日(水)

宛先

〒960-8141 福島市渡利字七社宮111
社会福祉法人 福島県社会福祉協議会
「はあとふる・ふくしまパズル係」

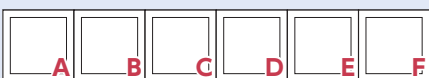
※ご記入の個人情報は適切に管理し、目的以外に使用しません。※いただいた本誌に対するご意見等は、「読者のおたより」に掲載させていただきます。

↓タテのカギ

- 下郷町の養鱒公園ではこの魚を釣って食べられます
- この上なくわるいこと。○○○○非道
- 盆のような月ってどんなカタチ?
- はさみに勝って紙に負けます
- アフリカの草原などで野生動物を見物するツアー
- ヒアルロン酸はニワトリのココから発見されました
- 救急箱にいろいろ入っています
- スゴロクのスタート地点
- 韓国の5人組ガールズグループ
- ドラマや映画で一番目立ちます
- も出花
- 東白川郡を流れる○○川。鮎の釣場として有名

⇒ヨコのカギ

- 特に女の子に人気のごっこ遊び。漢字で書くと「飯事」
- 約3.03cm
- 紳士のスポーツ。漢字で書くと「孔球」
- アヤメやカキツバタを英語で言うと
- 田楽、焼き鳥、蒲焼き、団子、BBQ
- 下北半島、村田兆治、金太郎
- 挨拶の一種。アイドルはコレの会を開いたりします
- めしべを香料としてパエリアやブイヤベースに入れます
- 門、才、辰、弘、伯、旺
- 投手⇒
- この木材を業界では「サクラ」と呼ぶそうです
- チベットなどに棲む長い毛で覆われたウシ科の哺乳類



抽選で当たります!



今月の当選者の中から抽選で3名の方に、社会福祉法人希望の杜福祉会あとろえ北山(就労継続A型・いわき市)の「おからドーナツ詰合せBOX」をプレゼントいたします。なお、当選者の発表は商品の発送をもってかえさせていただきます。

4・5月号の正解は「あぶくま洞(アブクマドウ)」でした。多数のご応募ありがとうございました。

ほっとコラム



福島県
民生児童委員協議会
会長 **かね こうし** 金子 祥子

安否確認に思う

「Aさん、大丈夫でしたか。お怪我はありませんか」「はい、大丈夫です」

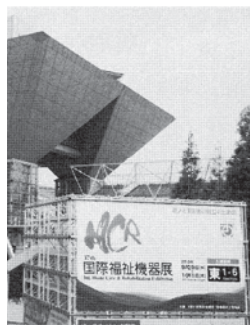
これは3月11日の大震災直後の安否確認に向いた折の私と一人暮らし高齢者の、玄関と奥の部屋とでのやりとりです。幸い全員無事でしたが、私が訪れたことが嬉しかったらしく、いつも弾んだ声で話していました。部屋の中は激しい揺れのために散乱していましたが、意気消

沈した人は一人もなく、さすがは戦中戦後更に厳しい食糧難の時代をくぐり抜けてきた人達だけのことはあると、せり上がるような感動を覚えました。

私たち民生児童委員は毎月必ず一人暮らしや寝たきり高齢者を訪ねて安否確認を行っています。そこで困り事の相談や健康状態を確認しながら人間関係も築いて孤独感を持たせぬよう心配りをしていますが、今回の震災は我々と要援護者との関係の中に更に大きな課題と教訓を持たせてもらったと痛感しています。

民生児童委員の役目は大変だとよく言われますが、たった一人でも老後を頑張り抜いている方々の寂しさに寄り添い語り合う役割に感謝しなければと思っています。

38th 老人と障害者の自立のための 国際福祉機器展 H.C.R.2011 Int. Home Care & Rehabilitation Exhibition 2011



会 期	2011年10月5日(水)~7日(金)
開場時間	10:00~17:00
会 場	東京国際展示場「東京ビッグサイト」(東京・有明)
入 場 料	無料・登録制(一部のプログラムは有料)
出 展	12か国・1地域490社より 約20,000点の福祉機器を総合展示
WEBサイト	http://www.hcr.or.jp

H.C.R.2011事務局 〒100-8980
東京都千代田区霞が関3-3-2 新霞が関ビル
(財)保健福祉広報協会 Tel. 03-3580-3052/Fax. 03-5512-9798

読者のおたより

福島は地震も少なく台風の被害もなく住み良い町でした。3月11日を境に見るも悲しい風景となり、希望を失いかけていました。テレビやラジオ、手紙やはがきで励まされ、自分を取り戻し頑張らなくてはと今では元気に前向きに仕事をしています。

(酒井 秀子さん)

毎月はおとふるふくしまを楽しみにしています。市町村の方々の福祉のあり方を参考に勉強しています。風評があちこちの生活を苦しめているこの頃、負けないで体を動かし免疫をつけなくちゃ。

(神保 堯子さん)

今回の東日本大震災についてのいろいろな活動や状況がよくわかりました。同じ福島県でも私の住む町は被害も少なくまいいほうです。皆で頑張らなければなりません!!

(佐藤 未穂さん)

編集後記

特集を担当し、震災時に様々な施設や関係者と毎日電話でやり取りをしていたことを鮮明に思い出しました。それとともに「あすれば良かった」「もっと別な支援の方法があったのでは」と後悔することもしきりです。「弱者は災害時も弱者だ」とある施設長が言っていました。真っ先に避難させるべき高齢者や障がい者が取り残され、移動手段や避難先を確保することさえ難しかった今回の震災。取材先の施設長の「その場に応じたその時の行動力や決断が必要」という言葉を肝に銘じたいと思います。

総務企画課 佐藤 美奈子

■発行・企画編集

社会福祉法人 福島県社会福祉協議会

〒960-8141 福島市渡利字七社宮111 TEL (024)523-1251代 FAX (024)523-4477

URL <http://www.fukushimakenshakyo.or.jp> メール heartful@fukushimakenshakyo.or.jp

発行日/平成23年7月29日

制作・印刷/(株)日進堂印刷所